

福祉士試験の改善を

大学経営者協が声明

福祉系大学経営者協

議会（会長＝丸山悟・

日本福祉大理事長、加

盟26大学）は4日、2

月に行われた第34回社

会福祉士国家試験の合

格基準点が150点満

点中105点（7割）

と高かったことに対し

て、今後の社会福祉士

養成に影を落としかね

ないとし、試験制度の運用改善を求める正副会長声明を出した。

合格基準点は「総得点の60％程度を基準として問題の難易度で補正」され、例年90点前後となっている。合格率はおおむね30％で第34回試験も31・1％だった。

それに対して同協議会は、合格率を3割程度としたことで合格基準点が上がったのではないかと疑問視し、「合格基準点が有名無実化している」と指摘。そもそも受験者は指定のカリキュラムを学んで単位を取得している

ため7割を不合格とする理由はなく、仮に合格率を3割程度とする理由があるなら公表するよう求めた。

社会福祉士には重層的支援体制整備事業などの担い手として期待や需要が高まっている。それなのに「人数を制限するかのような試験制度の運用は時代の要請に逆行している」と批判。高校生からは頑張っても7割は落とされる試験という声も聞かれるとし、社会福祉士を目指す人の減少につながりかねないことにも懸念を示した。

（榎戸新）